

株式会社日本トリム

2023年3月期

第2四半期決算説明会

2022年11月9日

証券コード：6788（東証プライム）



1. 決算概況 ・ 中期目標
2. 実績
3. 参考資料

2023年3月期 第2四半期 業績予想に対する実績

(単位：百万円)

	2023/3期 2 Q	2023/3期 2 Q 業績予想	業績予想比	2022/3期 2 Q	前期比
売上高	9,081	9,150	99.2%	8,411	108.0%
営業利益	1,220	1,220	100.1%	1,213	100.6%
経常利益	1,294	1,270	102.0%	1,253	103.3%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	847	790	107.3%	1,455	58.2%

売上、利益ともに期初計画に沿って進捗

- ▶ コロナ禍収束によりセミナー数が回復し、職域販売が前期比 11.6%増
- ▶ 人員採用：DS 5名増（105名）、HS 1名増（51名）（2022年3月末比）
- ▶ メイン商品 Refineの直売特別価格の6月から値上げ（税込+2.2万円）により、ウォーターヘルスケア事業の営業利益率が、第1Q(4月～6月)の11.6%から第2Q(7月～9月)は15.5%へと3.9ポイント改善。
- ▶ 電解水透析 多人数用システムが2施設に導入 売上高71百万円。
- ▶ ステムセル研究所 四半期売上高過去最高を更新。

来期以降の成長のための施策に注力

- ▶ 2023年6月にDS 5,000台、HS 1,700台体制への人員増強、営業力強化に注力。
- ▶ 職域セミナーを安定的に大量に取得するための取組みが必要。
(顧問、人材紹介会社の活用 等)
- ▶ 整水器 (Refine以外の機種) を2023年3月から、浄水カートリッジを同4月から一斉値上げ。来期から収益貢献。
- ▶ 卸・OEM部門 新規大口取引契約 (5,000台/年 規模) を見込む。
- ▶ 電解水透析 6施設への新規導入予定。

【新 資本政策の基本方針】

1. 資本効率性の向上 **目標指標：ROE 10%以上**
2. 株主還元の強化 **基準：DOE 3%**
3. 財務健全性の維持

※ ROE（自己資本利益率） ※ DOE（株主資本配当率） = ROE × 配当性向

2023年3月期

期末配当予想 **120円**

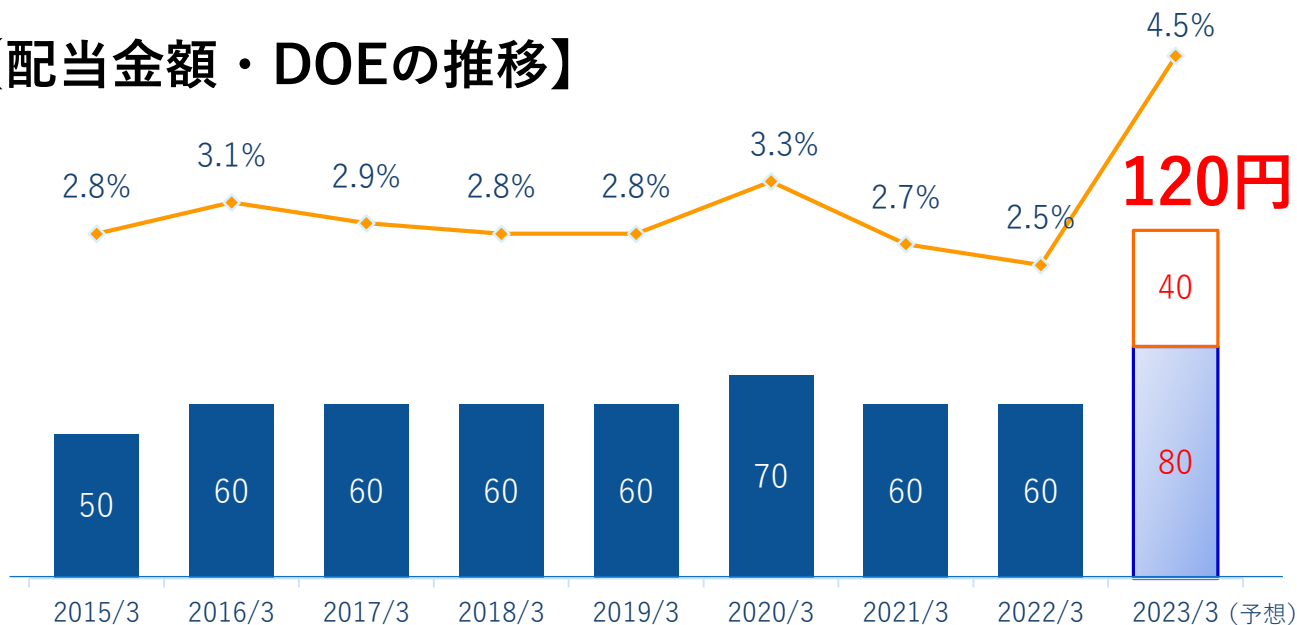
（増配20円 + 40周年記念配当 40円）

DOE **4.5%**

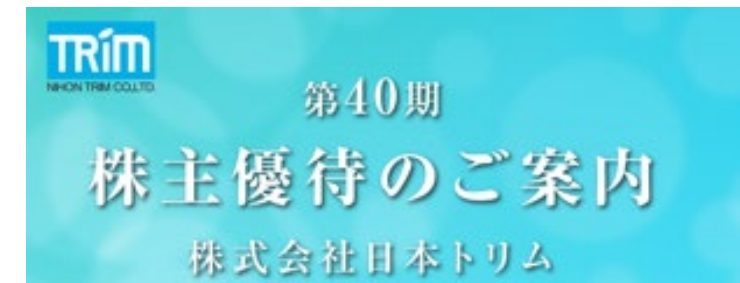
配当性向 **57.5%**

※ 会社予想ベース

【配当金額・DOEの推移】

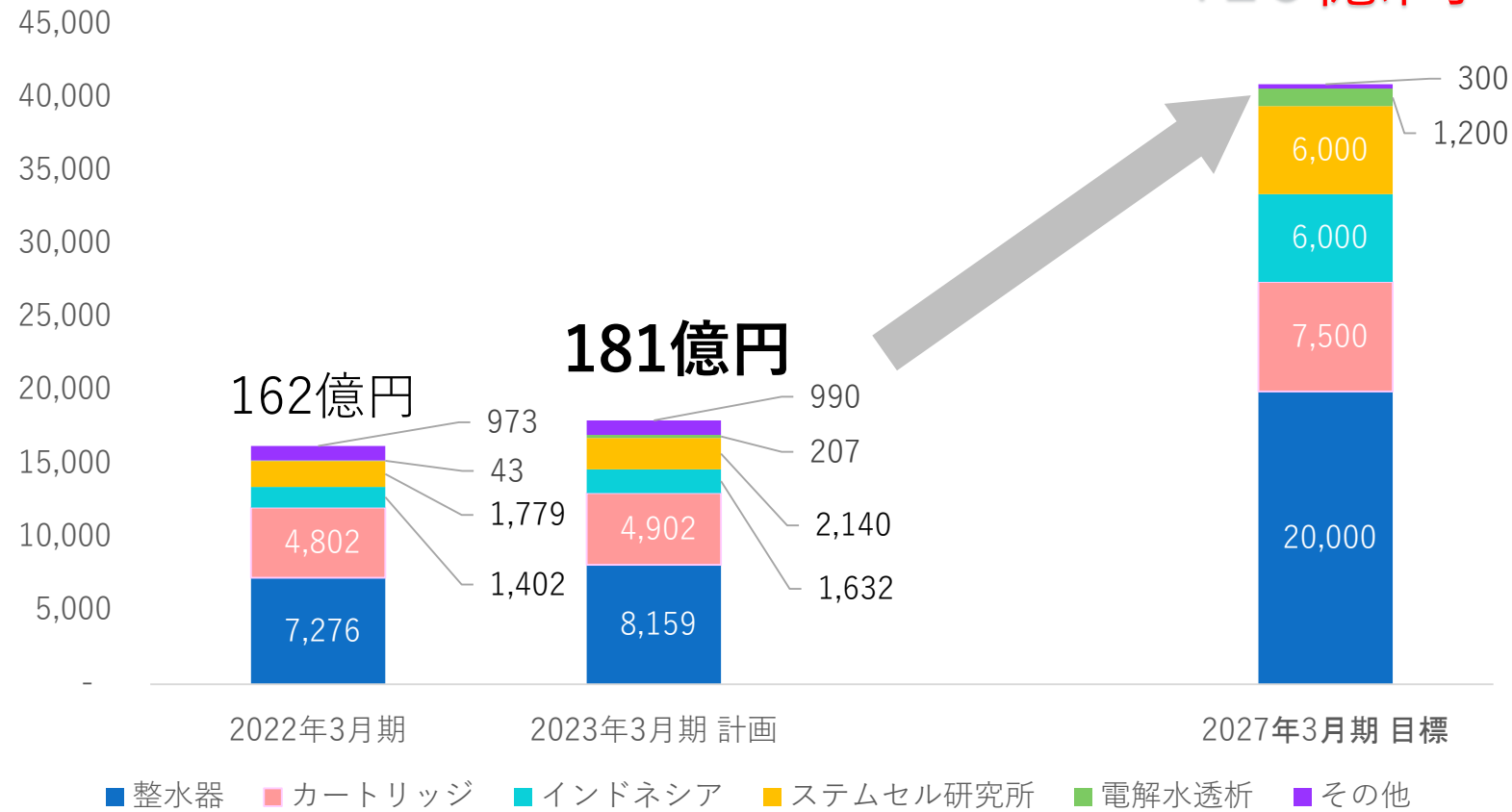


株主優待制度：弊社商品 30%オフ



中期目標（売上高）

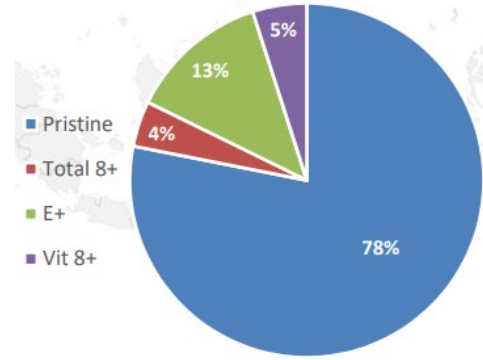
(単位：百万円)



- ▶ 整水器 : 200億円
- ▶ カートリッジ : 75億円
- ▶ インドネシア : 60億円
- ▶ 再生医療分野 : 60億円
- ▶ 電解水透析 : 12億円
- ▶ その他 : 3億円
- ▶ 新規分野への投資も推進

【目標】 2027年3月期 整水器売上高 200億円

- ▶ セミナー取得対策：職域販売セミナー数の確保がキーファクター
- ▶ 卸・OEM取引の拡大（海外含む）＝卸専用商品の開発、新規開拓
- ▶ WEB販売の拡大
- ▶ 紹介販売の拡大＝顧客満足度向上のためのお客様視点の施策
- ▶ 更なるエビデンスの取得＝ブームでなくエビデンスベースの需要拡大



PT. Super Wahana Tehno

- ▶ 同国最大級の財閥シナルマスグループとのJV
- ▶ 6工場が稼働（内 外注先 5工場）

拡大する市場

- ▶ 人口 256百万人
- ▶ ボトルドウォーター市場 **約 2,500億円** (2021年)
- ▶ アルカリ水ボトルのシェア 約 0.5%
- ▶ アルカリ水市場でのPristineのシェア 約78 %

上半期実績 ▶ ペットボトル 20%増、ガロン 8%増

(単位：百万円)

	2022年度	2023年度	前期比
売上高	631	836	132.5%

※ 現地通貨ベース 前期比 110.9%

中期目標

2026年度 売上高 60億円 / 2031年度 売上高 140億円

- ▶ マーケティングの強化
- ▶ 高級市場向けに、
ガラスボトル・炭酸ボトルの展開
- ▶ ペットボトルのジャワ島外への
展開地域拡大
- ▶ 品質管理体制、生産体制の強化



次世代のグローバルスタンダードへ



透析患者のWell-being への貢献

- ▶ 患者のQOL改善への貢献
- ▶ 未就労の透析患者の就労への寄与

病院経営の収益貢献

- ▶ 透析患者の余命延伸による治療機会増
- ▶ 投薬量減少による経費削減

全国 4,493施設への展開

- ▶ **ニプロ(株)との協働展開の開始**
- ▶ 日機装(株)との展開も継続
- ▶ 当上半期実績 2施設、下半期見込み6施設+ α
60施設以上と見積もりを出して具体的折衝中

29施設、929床 患者数 2,700人

聖路加国際病院（45床）、
亀田総合病院（70床）、
さなるサンクリニック（153床）等

中期目標

2027年3月期 売上高：12億円



1. 決算概況 ・ 中期目標

2. 実績

3. 参考資料

2023年3月期 第2四半期 連結損益計算書

(単位：百万円)

	2022/3期 2Q	構成比	2023/3期 2Q	構成比	前期比
売上高	8,411	100.0%	9,081	100.0%	108.0%
売上総利益	5,867	69.8%	6,293	69.3%	107.3%
販売費及管理費	4,654	55.3%	5,072	55.9%	109.0%
営業利益	1,213	14.4%	1,220	13.4%	100.6%
営業外収益	70	0.8%	83	0.9%	118.9%
営業外費用	29	0.4%	9	0.1%	30.8%
経常利益	1,253	14.9%	1,294	14.3%	103.3%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,455	17.3%	847	9.3%	58.2% (※)

【計画比】

(第2四半期計画/百万円)

売上高	99.2%	9,150
営業利益	100.1%	1,220
経常利益	102.0%	1,270
四半期純利益	107.3%	790

【対通期計画 進捗率】

(通期計画/百万円)

売上高	50.1%	18,130
営業利益	48.8%	2,500
経常利益	49.6%	2,610
四半期純利益	53.0%	1,600

※ 四半期純利益の前期比マイナスは、前期において、中国病院運営事業関連の債権譲渡及びシステムセル研究所の株式売り出しにより税金費用が減少した特殊要因。

2023年3月期 第2四半期 セグメント別 売上高

(単位:百万円)

	2022/3期 2Q	構成比	2023/3期 2Q	構成比	対前期比
D S (職域販売)	1,851	22.0%	2,026	22.3%	9.4%
H S (取付・紹介販売)	795	9.5%	778	8.6%	▲2.2%
S S (店頭催事販売)	228	2.7%	248	2.7%	8.7%
卸・O E M	371	4.4%	405	4.5%	8.9%
アフター	144	1.7%	176	1.9%	22.6%
架電(下取り)	209	2.5%	154	1.7%	▲26.5%
W E B 販売	242	2.9%	224	2.5%	▲7.6%
整水器合計	3,844	45.7%	4,013	44.2%	4.4%
浄水カートリッジ	2,546	30.3%	2,582	28.4%	1.4%
広州多寧健康科技有限公司	119	1.4%	93	1.0%	▲21.7%
P T . S u p e r W a h a n a T e h n o	631	7.5%	836	9.2%	32.5%
その他	331	3.9%	399	4.4%	20.7%
ウォーターヘルスケア事業計	7,473	88.8%	7,926	87.3%	6.1%
再生医療関連事業(ステムセル研究所他)	900	10.7%	1,076	11.9%	19.4%
電解水透析(T M I)	37	0.4%	78	0.9%	111.2%
医療関連事業計	938	11.2%	1,154	12.7%	23.1%
連結合計	8,411	100.0%	9,081	100.0%	8.0%

2023年3月期 第2四半期 連結貸借対照表

(単位：百万円)

	2022/3/31	構成比	2022/9/30	構成比
現金及び預金	11,878	44.7%	12,892	46.8%
受取手形及び 売掛金	3,861	14.5%	4,435	16.1%
固定資産	8,430	31.7%	8,512	30.9%
資産合計	26,590	100.0%	27,529	100.0%
前受金	2,943	11.1%	3,129	11.4%
純資産合計	20,802	78.2%	21,354	77.6%
負債純資産合計	26,590	100.0%	27,529	100.0%

現金及び預金＋売掛金
合計 **17,327** 百万円
+ **1,587** 百万円

資産合計
+ **938** 百万円

※前受金

主にステムセル研究所に
おける前受保管料

1. 決算概況 ・ 中期目標
2. 実績
- 3. 参考資料**

企業理念:「快適で健康なヒューマンライフの創造に貢献する。」

【マテリアリティ(重要課題)】

- 地球温暖化対策への対応
- 環境対策（循環型社会の構築）への貢献



- 持続可能な調達の実施



- 健康寿命の延伸への貢献 [ウォータヘルスケア事業]
- 新しい医療（治療法・サービス）の開発 [医療関連事業]



健康・医療



環境



ひと



- ダイバーシティ&インクルージョンの推進
- 働き方改革の実施



サプライチェーン



社会



- 地域社会との共存
- 農業分野への貢献



理化学研究所との共同論文（2022年10月）

電解水素水の日常的飲用は、
炎症性腸疾患モデルラットの腸組織の炎症を抑制し、
腹部疼痛を緩和する

科学誌「*Nutrients*」で発表

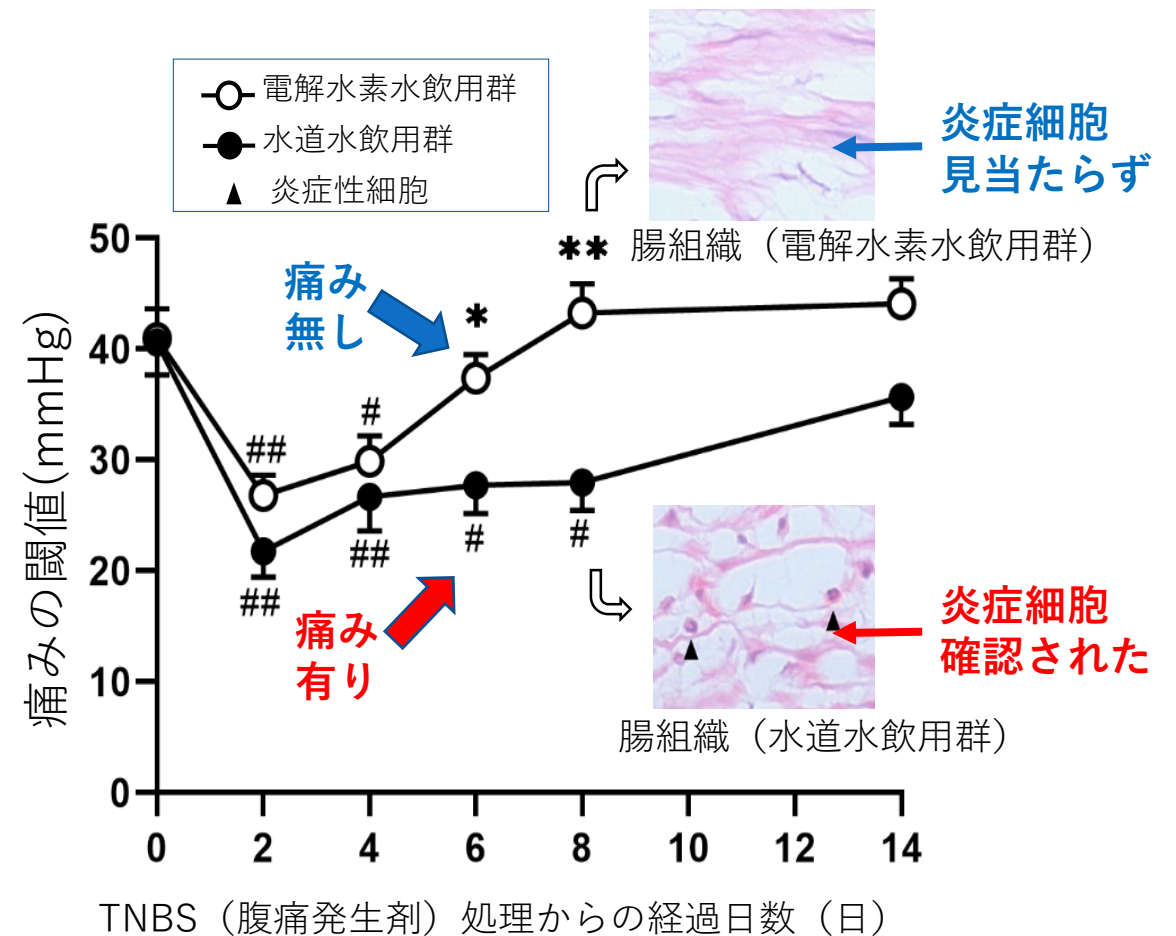
電解水素水の日常的飲用により、難病である
潰瘍性大腸炎やクローン病の患者の方々の
QOL（生活の質）向上への貢献が期待される。

炎症性腸疾患：

腸管の慢性的な炎症により、腹痛、下痢、血便などの症状を伴う疾患。寛解しても、再発を繰り返しやすいことが特徴。

患者数：潰瘍性大腸炎 140,574人
クローン病 47,633人
(厚生労働省「令和2年度 衛生行政報告書」)

図1 モデル腹部疼痛への飲料水による経時的影響





株式会社ステムセル研究所

- ▶ 東証グロース市場上場（証券コード：7096）
- ▶ 時価総額 25,539百万円（2022年11月7日 終値）
- ▶ 当社持分：72.1%

▶ **さい帯血保管数シェア 99.9%**

上半期実績 ▶ 四半期売上高 過去最高を更新

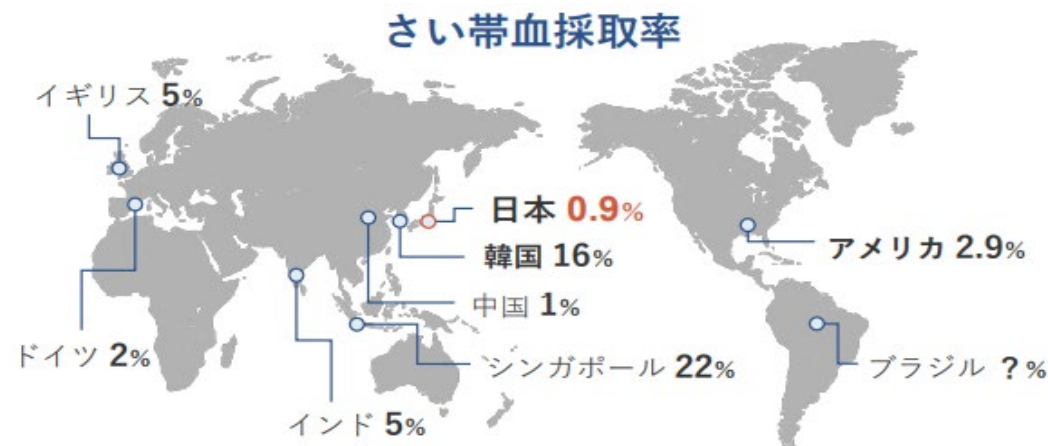
（単位：百万円）

	2022年度	2023年度	前期比
売上高	865	1,036	119.8%

中期目標 ▶ **売上高60億円 利益率25～30%**

日本のさい帯血採取率 **0.9%**

目標採取率：3-4年後 **3%**、中期的 **10%**



本資料で記述されている業績予想ならびに将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。